

# 厚生労働省説明資料

（職業能力開発大学校・短期大学校について）

平成24年12月27日

# 職業能力開発促進法に定められる職業能力開発施設

## ① 職業能力開発大学校、職業能力開発短期大学校

高度な知識と技能を兼ね備えた実践技術者、生産技術・生産管理部門のリーダーとなる中小企業のものづくり基盤を支える人材を養成する施設。  
専門課程の職業訓練では、高等学校卒業者等を対象に、産業界の人材ニーズへの対応を重視し、豊富な実習、演習を通じて、一連の生産活動全般に対応できる実践力習得のための訓練を実施している。

- ・学校数：(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構立 大学校10校(その他附属短期大学12校)、短期大学校1校  
都道府県立 短期大学校13校 (平成24年4月現在)
- ・修業年限：専門課程2年、応用課程2年
- ・定員規模：(専門課程)機構立 入学定員2,020人 入校者数2,101人  
都道府県立 入学定員1,441人 入校者数1,082人  
(応用課程)機構立 入学定員 830人 入校者数 892人 (平成23年度)
- ・指導員：専門課程の職業訓練指導員は、職業訓練指導員免許を受けることができる者と同等以上の能力を有する者のうち、相当程度の知識又は技能を有する者として厚生労働省令で定める者でなければならない。

(※下線部分 注)

- 博士若しくは修士の学位を有する者若しくは応用研究過程若しくは研究過程の指導員訓練を修了した者又は研究上の業績がこれらの者に準ずる者であつて、教育訓練に関し適切に指導することができる能力を有すると認められるもの
- 十年以上(長期課程の指導員訓練を修了した者又は学士の学位を有する者にあつては、五年以上)の実務の経験を有する者であつて、教育訓練に関し適切に指導することができる能力を有すると認められるもの等 (※職業能力開発促進法施行規則第四十八条の二より)

## ② 職業能力開発総合大学校

産業構造の変化や技術革新等に伴う訓練ニーズの変化に対応した職業訓練指導員の養成と再訓練を行う施設。  
高等学校卒業者等を対象に、職業訓練指導員の養成等を目的とした訓練を実施している(学位取得可能)。

## ③ 職業能力開発促進センター

ものづくり分野を中心に、失業者の早期再就職を図るための離職者訓練と、中小企業の労働者等に技能と知識を習得させるための在職者訓練を実施する施設。

## ④ 障害者職業能力開発校

一般の公共職業能力開発施設において職業訓練を受講することが困難な重度障害者等を対象とした職業訓練を実施する施設。

# 機構立職業能力開発短期大学校等の設置状況

全国へ広がる職業能力開発のネットワーク

あなたの夢の実現を、私たちが協力します。



**九州ポリテクカレッジ**  
校長 末岡 淳男

座右の銘  
鳥の目、  
虫の目、  
人間の目

九州大学工学研究科機械工学専攻  
博士課程単位取得退学

- 工学博士
- 専門は機械力学、機械振動学、非線形振動
- 九州大学工学部教授、工学部長・工学部長・工学研究科長、新領域学府オートモーティブサイエンス専攻特任教授、水素エネルギー国際センター特任教授を経て現職
- 九州大学名誉教授
- 日本機械学会論文賞受賞、日本機械学会機械力学・計測制御部門 部門功績賞、学功績賞受賞

**中国ポリテクカレッジ**  
校長 宇野 義幸

座右の銘  
人生は  
出会いの連続、  
多くの  
良き出会いを

京都大学大学院工学研究科博士課程  
単位取得退学

- 工学博士
- 専門はレーザー加工、放電加工、電子ビーム加工等の特殊加工学
- 大坂大学助手、岡山大学講師、助教授、教授、岡山大学産学官融合センター長を経て現職
- 岡山大学名誉教授

**北陸ポリテクカレッジ**  
校長 池野 進

座右の銘  
一期一会

大坂大学大学院工学研究科博士課程  
修了

- 工学博士
- 専門は材料物性工学
- 富山大学大学院工学研究科教授、地域共同研究センター長(併任)を経て現職
- 富山大学副学長を歴任
- 富山大学名誉教授

**北海道ポリテクカレッジ**  
校長 前田 康二

座右の銘  
冬来たりなば  
春遠からじ

東京大学大学院工学系研究科博士課程  
修了

- 工学博士
- 専門は材料工学、結晶欠陥、ナノサイエンス
- 東京大学大学院工学系研究科物理工学専攻講師、助教授、教授を経て現職
- 科学研究費補助金特定領域研究領域代表、日本物理学会領域代表などを歴任
- 日本金属材料会功績賞受賞

**東北ポリテクカレッジ**  
校長 三浦 隆利

座右の銘  
技術者は野武士たれ

東北大学大学院工学研究科博士課程  
修了

- 工学博士
- 専門は熱工学
- 東北大学大学院工学研究科教授
- 大学等環境安全協議会会長
- 化学工学協会論文賞受賞

**沖縄ポリテクカレッジ**  
校長 仲尾 善勝

座右の銘  
「柳は緑、  
花は紅、  
人はただ情」  
(柳節)

米国オクラホマ大学大学院理学研究科  
博士(Ph.D.)課程修了

- Ph.D.
- 専門は計算知能学、ソフトコンピューティング
- 米国フィラデルフィア州立大学、高麗(韓国)大学、ウイスコンシン大学助教授、現職大坂大学教授を経て現職
- 琉球大学名誉教授
- Best Paper賞(2006年 国際会議CS&IT (Amman, Jordan), Outstanding Paper賞(2005年 国際会議AIS, Yeosu, Korea), Best Presentation賞(2004年 国際会議AIS, 横浜), Excellent Presentation賞(2002年 国際会議AIS, 筑波)

**ポリテクカレッジ山口**  
校長 白川 幸太郎

山口 島根 鳥取 徳島 高知

山口 長門 佐賀 福岡 大分 熊本 宮崎 鹿児島

**ポリテクカレッジ鳥根**  
校長 白川 幸太郎

山口 島根 鳥取 徳島 高知

山口 長門 佐賀 福岡 大分 熊本 宮崎 鹿児島

**ポリテクカレッジ石川**  
校長 小竹 康生

石川 富山 福井 滋賀 岐阜 愛知 三重 和歌山

石川 福井 滋賀 岐阜 愛知 三重 和歌山

**ポリテクカレッジ秋田**  
校長 田野倉 慎

秋田 岩手 山形 宮城 新潟 福島 群馬 栃木 茨城 千葉

秋田 岩手 山形 宮城 新潟 福島 群馬 栃木 茨城 千葉

**ポリテクカレッジ千葉**  
校長 平塚 剛一

千葉

**関東ポリテクカレッジ**  
校長 太田 正廣

座右の銘  
まず実行

東京大学大学院工学研究科博士課程単位取得退学

- 工学博士
- 専門はエネルギー環境工学
- 東京大学大学院工学研究科教授、首都大学東京大学院教授、同国際センター長補佐、同学生サポートセンター副センター長を経て現職

**ポリテクカレッジ福山**  
校長 久富 慶吾

山口 島根 鳥取 徳島 高知

山口 長門 佐賀 福岡 大分 熊本 宮崎 鹿児島

**ポリテクカレッジ高知**  
校長 松中 孝二

高知

**ポリテクカレッジ滋賀**  
校長 室伏 誠

滋賀

**ポリテクカレッジ浜松**  
校長 持本 弘之

浜松

**職業能力開発総合大学校(相模原キャンパス、小平キャンパス)**  
校長 古川 勇二

職業能力開発総合大学校は日本での唯一の職業訓練指導員養成機関です。当校の修了生が全国の職業能力開発施設で職業訓練指導員として活躍しています。また、職業訓練指導員の研修や、訓練で使用するカリキュラムの開発、各種情報発信も行っております。近年、小平キャンパスでは、平成24年度から総合課程(学士(生産技術))を実施しています。

東京大学大学院工学研究科修士課程修了

- 工学博士
- 東京大学工学部教授、工学部長、都市研究所長、東京工業大学機械システム工学科教授、大学院技術経営研究科長を経て現職
- 精密工学会会長等を歴任し、現在、日本学術会議連席委員
- 東京大学・東京農工大学・大連理工大学名誉教授、上海交通大学客座教授

**近畿ポリテクカレッジ**  
校長 家村 浩和

座右の銘  
一所懸命に  
自分磨きを  
楽しもう  
自らのため  
人のため

京都大学大学院工学研究科博士課程  
交通土木工学専攻修了

- 工学博士
- 専門は地震工学
- 京都大学大学院工学研究科都市社会工学専攻教授を経て現職
- 世界地震工学会事務局長を歴任
- 京都大学名誉教授
- 土木学会論文賞受賞

**東海ポリテクカレッジ**  
校長 大澤 靖治

座右の銘  
つねに  
向上心を

京都大学大学院工学研究科修士課程  
修了

- 工学博士
- 専門は電力システム工学
- 京都大学工学部助手、筑波大学構造工学系講師、助教授、神戸大学工学部助教授、教授、京都大学大学院工学研究科教授を経て現職
- 京都大学名誉教授

※写真等の掲載については、紙面の都合上、専門課程と応用課程を設置しているポリテクカレッジ(職業能力開発短期大学校)の校長のみとなっています。

# 教育訓練システムについて

専門課程は、高校卒業者等を対象に、基本的な技能・技術から専門分野に必要な高度な技能・技術までを体系的に習得する2年間の訓練課程【短期大学校・大学校で履修】

- ・1年次:ものづくりに必要な基礎的な理論と基本的な技能・技術を一体的に習得する。
- ・2年次:ものづくりに必要な高度な理論と技能・技術を習得し、生産現場に必要な実践力を身につける。



## 専門課程

自ら「ものづくり」ができるテクニシャン・エンジニアを育成。

### 実学融合

生産現場で必要となる技能・技術と、それに関する理論を有機的にバランスよく結びつけた訓練カリキュラム。

### 実践的カリキュラム

生産現場で必要となる技能・技術を身につけるため、実験・実習に重点を置いたカリキュラム。

### 少人数制

少人数制で、学生一人ひとりが十分に実験・実習に取り組むことができる充実した実験実習設備。

### 主な設置訓練科

- 生産技術科
- 電子情報技術科
- 住居環境科
- 建築科
- 電気エネルギー制御科

### 実習により制作した成果物



## 応用課程

応用課程は、専門課程修了者、または同等の技能と知識を有する者などを対象に、高度な技能・技術や企画・開発などを修得する2年間の訓練課程【大学校で履修】

- ・1年次:専門分野の技能・技術を深めると共に、関連する技能・技術を習得し、それらを活用する応用力を身につける。
- ・2年次:ワーキンググループ方式により、生産現場に密着した製品の企画開発から政策までの創造的・実践的なものづくり能力を身につける。

将来の生産技術・生産管理部門のリーダーを育成。

### 課題実習

製品の企画開発など具体的な「ものづくり」の総合的な実習課題の設定により、自ら課題を解決するプロセスを体験し、技能・技術を応用する能力を習得。

### ワーキンググループ学習

複数の分野から構成されるものづくり現場における生産工程にない、各人がグループの中で、専門性を発揮し、共通の課題に取り組み、生産現場に密着した製品の企画開発から製作までの創造的・実践的なものづくり能力や他分野との複合技術について習得。

### 生産現場に密着

実際の製品に近い実習課題を解決することにより、生産現場で必要となる専門的知識及び工学理論を習得。

### 設置訓練科

- 生産機械システム技術科
- 生産電子システム技術科
- 生産情報システム技術科
- 建築施工システム技術科

### 実習により制作した成果物



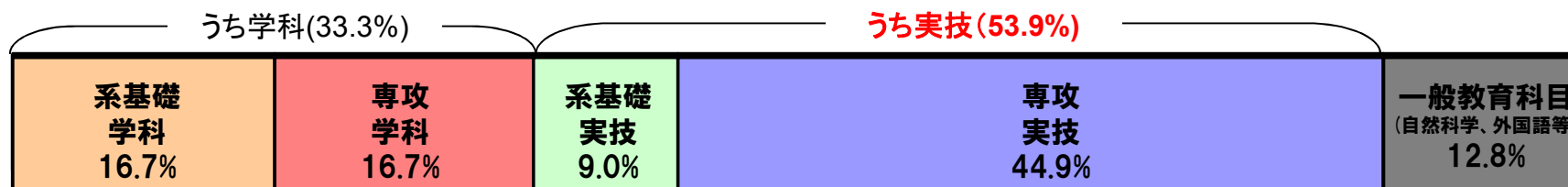
# 職業能力開発大学校・短期大学校の学科・実技の割合

職業能力開発大学校・短期大学校の専門課程の職業訓練(高等学校卒業者等を対象、訓練期間2年、総訓練時間2800時間以上)は、29の専攻科について教科、訓練時間等の基準が定められており、必修部分について、実技の割合は、平均して5割を超えている。

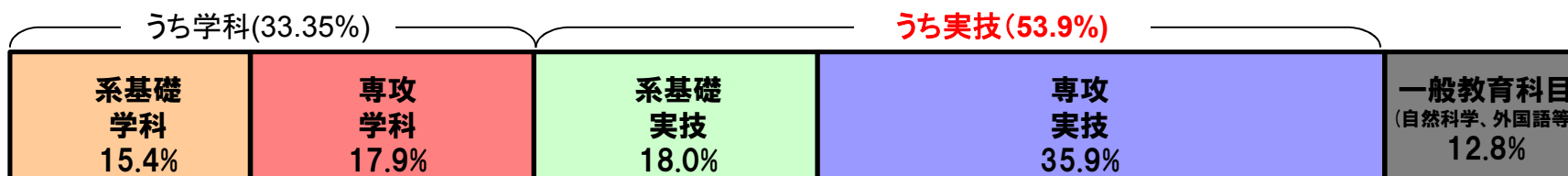
## 専門課程

例:東北職業能力開発大学校附属秋田職業能力開発短期大学校

生産技術科(総訓練時間2,808時間)



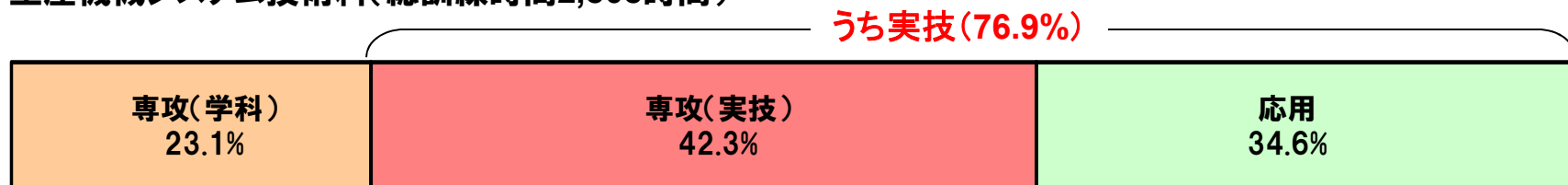
電子情報技術科(総訓練時間2,808時間)



## 応用課程

例:東北職業能力開発大学校

生産機械システム技術科(総訓練時間2,808時間)

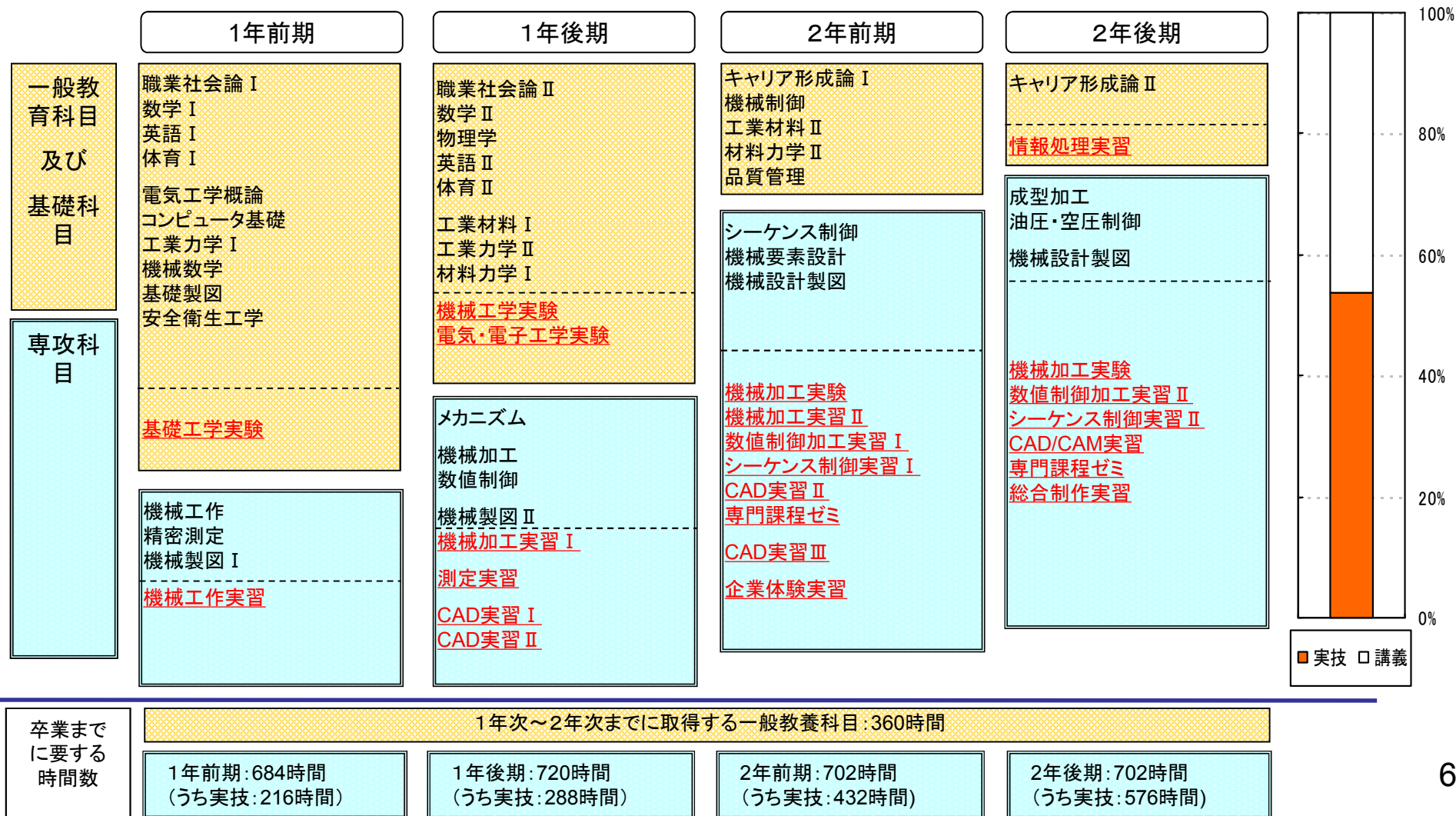


# 職業能力開発短期大学校（生産技術科）のカリキュラム例

当該短期大学校（専門課程）において、学生が受講するカリキュラムのうち、全体に占める実技の割合は、時間数では約54%である。

(例)東北職業能力開発大学校附属秋田職業能力開発短期大学校生産技術科(専門課程)

卒業に要する授業時間 : 2,808時間  
上記のうち、実技の授業時間 : 1,512時間



# 職業能力開発大学校（生産機械システム技術科）のカリキュラム例

当該大学校（応用課程）において、学生が受講するカリキュラムのうち、全体に占める実技の割合は、時間数では約77%である。

(例)東北職業能力開発大学校生産機械システム技術科(応用課程)

卒業に要する授業時間 : 2,808時間  
上記のうち、実技の授業時間 : 2,160時間



卒業までに要する時間数	1年次～2年次までに取得する専攻学科科目: 648時間			
	1年前期: 756時間 (うち実技: 648時間)	1年後期: 648時間 (うち実技: 504時間)	2年前期: 756時間 (うち実技: 432時間)	2年後期: 648時間 (うち実技: 576時間)

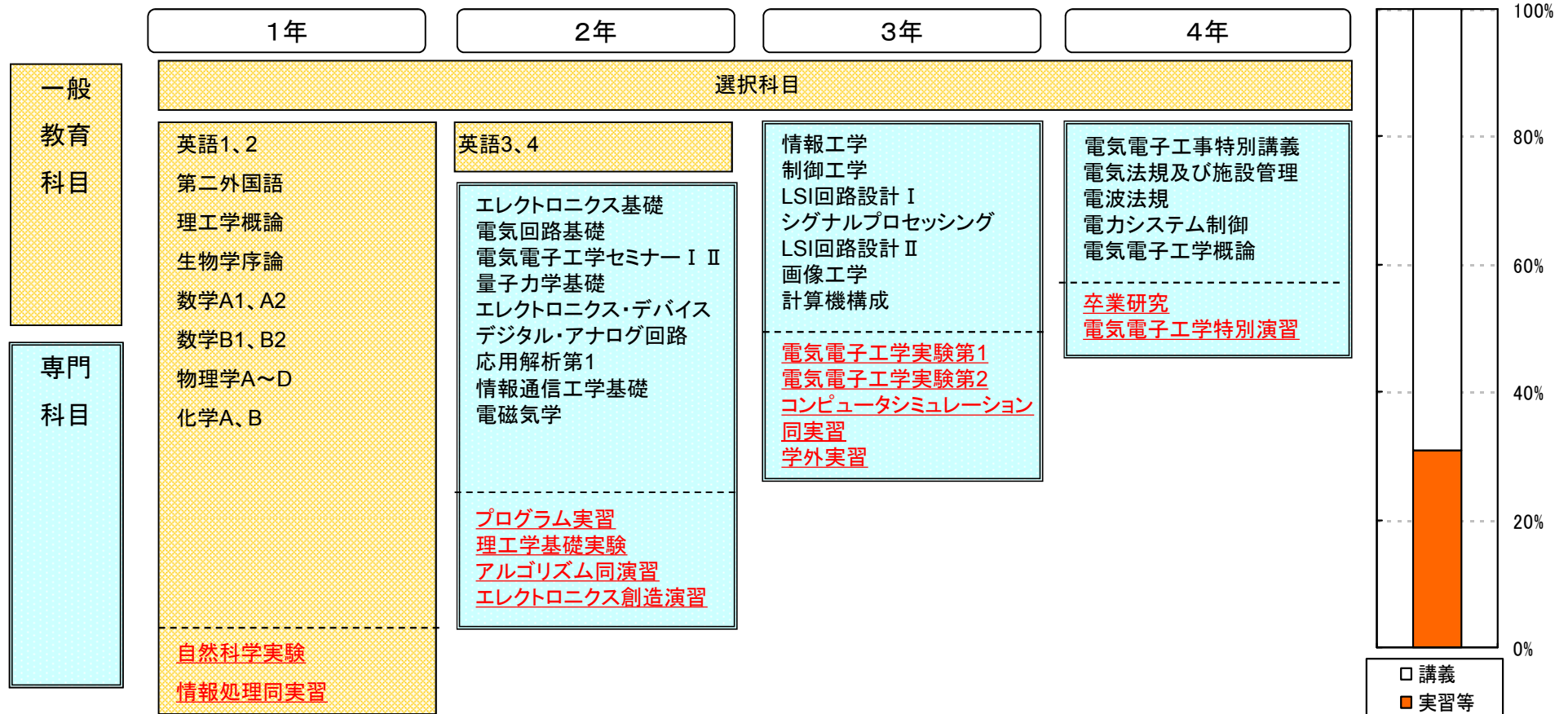
# 参考①：大学（理工学部電子工学科）のカリキュラム例

※今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(平成23年1月中央教育審議会答申)参考資料より抜粋

当該大学において、卒業に要する単位数分のカリキュラムのうち、演習、実験、実習、企業内実習の占める割合は、単位数換算で最大約22%、時間数に換算すると最大約31%である。

卒業に要する単位(授業時間) : 130単位以上(2,385時間以上)  
 上記のうち、実習等の単位(授業時間) : 29単位(870時間)

※講義及び演習については、1単位=15時間として換算  
 ※実験、実習及び実技については、1単位=30時間として換算  
 ※卒業に要する単位数以上の履修、自主学習に費やす時間等を除く場合の推計値



卒業までに要する単位数等	1年次~4年次までに取得す選択科目: 270時間			
	1年次: 40単位(660時間) うち実習等: 4単位(120時間)	2年次: 32単位(600時間) うち実習等: 8単位(180時間)	3年次: 24単位(510時間) うち実習等: 10単位(300時間)	4年次: 16単位(240時間) うち実習等: 7単位(105時間)



# 参考②: 専門学校(情報システム科)のカリキュラム例

※今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(平成23年1月中央教育審議会答申)参考資料より抜粋

当該専門学校において、学生が受講するカリキュラムのうち、全体に占める実習等の割合は、時間数に換算して約42%である

卒業に要する授業時間 : 4,364時間  
 上記のうち、実習等の時間 : 1,844時間



卒業までに要する学習時間	1年: 308時間 (うち実習等: 168時間)	2年: 210時間 (うち実習等: 98時間)	3年: 112時間 (うち実習等: 0時間)	4年: 56時間 (うち実習等: 0時間)
		1年: 812時間 (うち実習等: 196時間)	2年: 910時間 (うち実習等: 490時間)	3年: 1,048時間 (うち実習等: 448時間)

## 職業能力開発短期大学校等の修了者の進路状況

(人)

課程	年度	修了者数	進学者数						就職	その他	未就職
			大学院	大学	短大	専門学校・ 各種学校	応用 課程				
専門課程	平成21年度	3,117	1,022	－	6	2	47	967	1,985	13	97
	平成22年度	2,915	932	－	6	3	37	886	1,906	8	69
	平成23年度	3,062	891	－	2	2	34	853	2,096	20	55
応用課程	平成21年度	866	28	23	－	－	5	－	816	－	22
	平成22年度	853	25	16	2	－	6	1	813	－	15
	平成23年度	929	16	5	1	－	10	－	900	－	13